



2025年10月期 第2四半期（中間期）

決算補足資料

正栄食品工業株式会社
（証券コード 8079 東証プライム市場）

I. 2025年10月期 第2四半期（中間期）業績報告

II. 中期経営計画の進捗

業績ハイライト（11-4月）



- ◆ 売上高につきましては、日本国内で乳製品や製菓原材料などの売上が増加した上、米国・中国ともに売上増となったことから、前年同期比で+10.1%の増収となりました。
- ◆ 利益につきましては、売上総利益は前年同期比+1.7%と増益基調を維持しましたが、人件費やDXに向けた費用の増加などから販売費及び一般管理費が増加となり、営業利益は前年同期比▲5.7%の減収、経常利益は同▲7.4%の減収、親会社株主に帰属する中間純利益は同▲11.1%の減収となりました。

単位：百万円

	FY24/Q2	FY25/Q2		前年同期比	期初予想比	FY25	
	実績	期初予想	実績			期初予想	修正予想
売上高	59,692	59,500	65,764	+10.1%	+10.5%	115,000	120,000
売上総利益	10,018	—	10,192	+1.7%	—	—	—
営業利益	3,092	2,900	2,913	▲5.7%	+0.4%	4,400	4,550
経常利益	3,178	2,950	2,941	▲7.4%	▲0.2%	4,500	4,600
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,949	1,950	1,731	▲11.1%	▲11.1%	3,000	2,750
売上高営業利益率	5.2%	4.8%	4.4%	—	未達	3.8%	3.7%

為替レート	: 米ドル	151.41円	149.52円
	: 中国元	20.83円	20.59円
	: 香港ドル	19.34円	19.22円

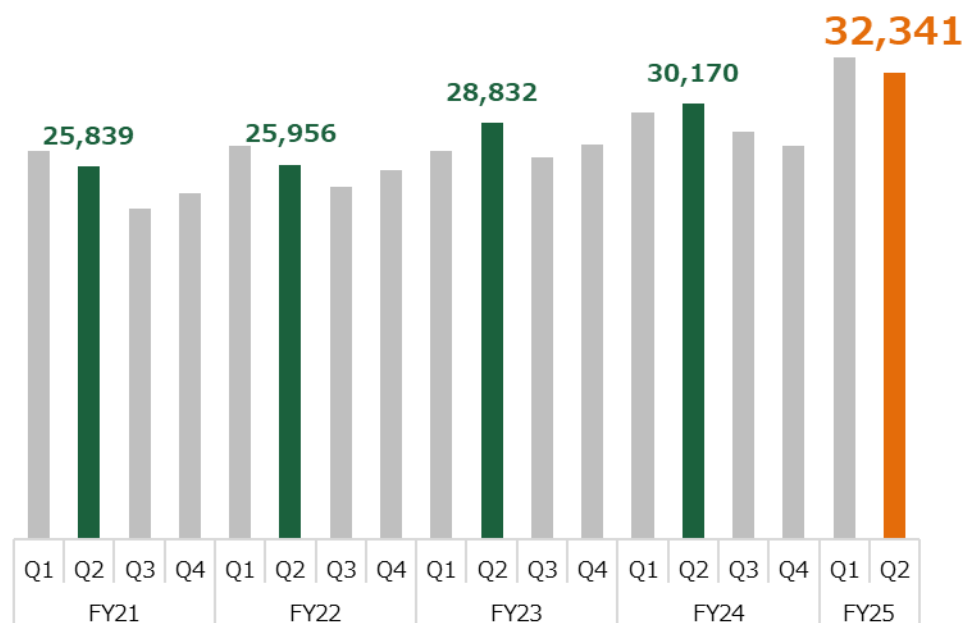
業績推移 売上高と売上総利益



- ◆ 売上高は順調に増加し、同四半期で過去最高を更新しました。
- ◆ 売上総利益は、同四半期で過去2番目に高いものとなりました。

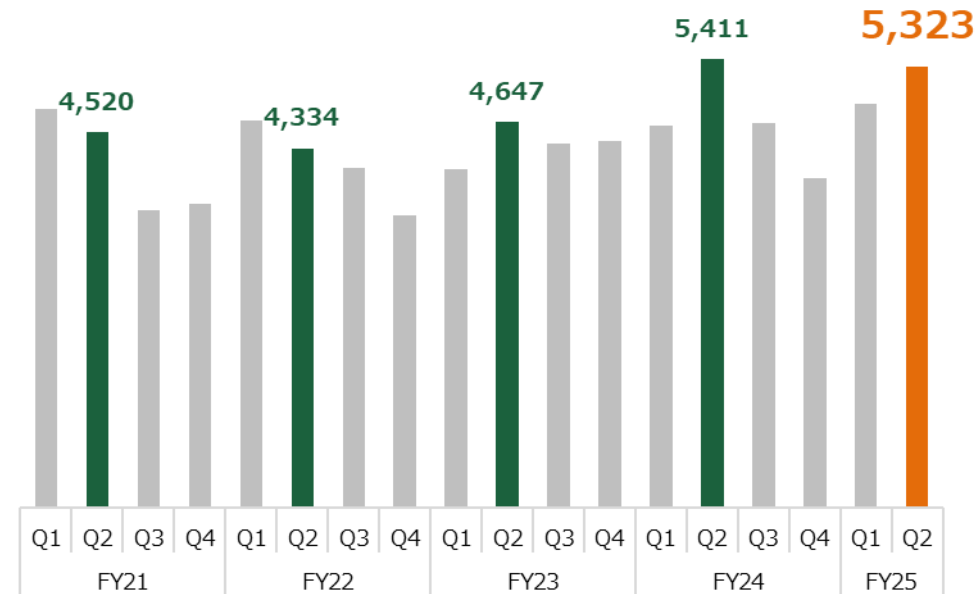
売上高推移(四半期別)

単位：百万円



売上総利益推移(四半期別)

単位：百万円

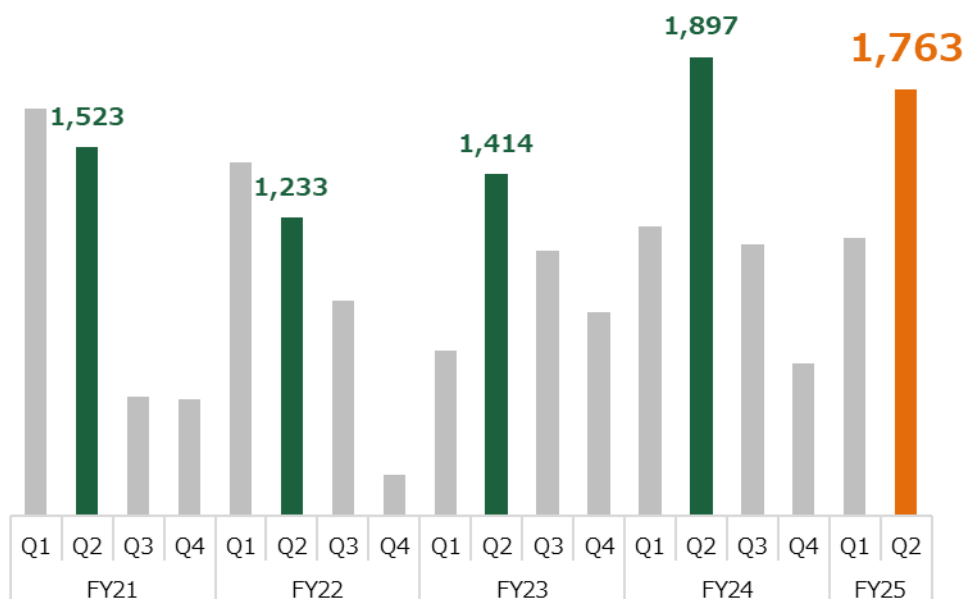


業績推移 営業利益

- ◆ 営業利益は、前年同期比で減少しましたが、過去2番目に高い利益となりました。
- ◆ 前期比では増収となったものの、原価率の上昇や人件費・物件費の増加により減益となりました。

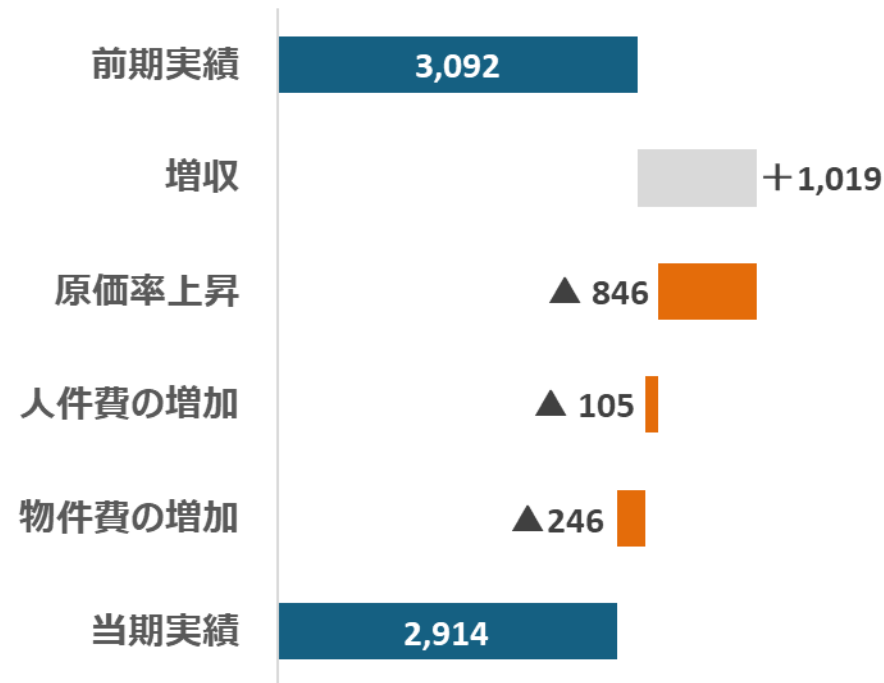
営業利益推移(四半期別)

単位：百万円



営業利益増減要因（11-4月）

単位：百万円



セグメント別事業内容

ShoEi

日本

製菓・製パン業界を中心とした食品業界向けの食品原材料（乳製品、油脂、製菓材料、乾果実、缶詰、外食用食材等）の仕入れ、加工・製造、販売を主要業務としているほか、菓子類や乾果実類（ナッツ、ドライフルーツ）のリテール商品を製造して販売。国内に7工場を所有。

米国

SHOEI FOODS (U.S.A.), INC

- ① クルミを農家から仕入れ、殻付きまたは剥き身に加工して主に輸出
- ② プルーンの仕入と販売
- ③ 乾果実類を米国内で仕入れ、日本（当社）へ輸出
- ④ プルーン・クルミ・アーモンド農園経営
- ⑤ 乾果実類を輸入し米国内で販売

中国

青島秀愛食品有限公司

延吉秀愛食品有限公司

- ① 製菓原材料類、乾果実類の加工・製造
- ② 加工品、製造品の日本や欧州等への輸出
- ③ 上海秀愛国際貿易有限公司や香港正栄国際貿易有限公司経由で中国・香港内での販売

上海秀愛国際貿易有限公司

香港正栄国際貿易有限公司

- ① 主に乾果実類を輸入し、中国・香港で販売
- ② 青島秀愛食品有限公司、延吉秀愛食品有限公司で加工・製造した製品を中国・香港内で販売



セグメント別業績（11-4月）

ShoEi

単位：百万円

	売上高				セグメント利益			
	FY24/Q2	FY25/Q2	増減額	増減率	FY24/Q2	FY25/Q2	増減額	増減率
日本	52,553	56,501	3,948	+7.5%	2,824	2,719	▲ 104	▲3.7%
米国	5,500	5,886	386	+7.0%	276	265	▲ 10	▲3.9%
中国	5,252	5,934	681	+12.9%	211	123	▲ 87	－
調整額	▲ 3,613	▲ 2,558	1,054	－	▲ 219	▲ 195	24	－
合計	59,692	65,764	6,071	+10.1%	3,092	2,913	▲ 179	▲5.7%

日本

- ◆ 売上高は、コスト上昇に対応した価格の引上げもあり、業務用乳製品、製菓原材料類、ドライフルーツ、菓子・リテール商品などの売上が増加したことから、前年同期比7.5%増の565億1百万円となりました。
- ◆ セグメント利益は、値上げの進展により売上総利益は増益となりましたが、DXに関わる顧問料や人件費などが増加したことから、同3.7%減の27億19百万円となりました。

米国

- ◆ 売上高は、クルミやプルーンについて作柄の影響により受入量・販売量が減少となりましたが、市場価格の上昇を反映した値上げにより、前年同期比7.0%増の58億86百万円となりました。
- ◆ セグメント利益は、クルミについては値上げにより利幅は拡大しましたが販売量が減少し、プルーンについては値上げの遅れから減益となったことから、同3.9%減の2億65百万円となりました。

中国

- ◆ 売上高は、輸出は減少となりましたが、ナッツやドライフルーツなどの中国・香港内での売上が増加したことから、前年同期比12.9%増の59億34百万円となりました。
- ◆ セグメント利益は、中国内の売上は増加となっており国内販売の売上総利益は増加しましたが、輸出については減益となったこと、また販管費が増加したことから、同41.6%減の1億23百万円となりました。

品目別の主要商品

大分類	中分類	主な商品
乳製品・油脂類	乳製品	バター、粉乳、練乳、液状乳製品、チーズ、乳糖、ホエイ
	油脂類	製菓・冷菓・製パン用油脂（マーガリン類、ショートニング等）
製菓原材料類	製菓材料	チョコレート加工品、製菓用焼き菓子、フルーツ洋酒漬（ラムレーズン他）、ピール加工品、フルーツフィリング
	栗製品	マロンペースト、栗甘露煮、マロングラッセ
	和菓子材料	さつまいも、杏仁霜、柏葉、桜漬葉
	製パン材料	上新粉、餅粉
	仕入商品	膨張剤・ゼリー、チョコ・ココア、蜂蜜・糖類、洋酒（リキュール類他）、抹茶、胡麻
乾果実・缶詰類	ナッツ&シード類	アーモンド、クルミ、マカデミアナッツ、ココナッツ、ピスタチオ、カシューナッツ、ヘーゼルナッツ、松の実、パンプキンシード
	ドライフルーツ	レーズン、プルーン、クランベリー、ブルーベリー、パイン
	フルーツ加工品	リンゴ加工品、マンゴー加工品、黄桃缶詰、パイン缶詰
	業務用食材	パスタ、スイートコーン、トマト加工品、オリーブオイル、デザート食材、冷凍フルーツピューレ
菓子・リテール商品類	菓子	チョコレート菓子、ビスケット
	リテール商品	ナッツ小袋、プルーン小袋、その他ドライフルーツ小袋、野菜加工品

品目別売上構成（11-4月）



単位：百万円

	FY24/Q2		FY25/Q2		前年同期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
乳製品・油脂類	18,270	30.6%	20,456	31.1%	+2,186	+11.9%
製菓原材料類	9,567	16.0%	10,497	16.0%	+930	+9.7%
乾果実・缶詰類	20,981	35.2%	23,309	35.4%	+2,327	+11.0%
菓子・リテール商品類	10,748	18.0%	11,492	17.5%	+744	+6.9%
その他	124	0.2%	7	0.0%	▲117	▲94.0%
合計	59,692	100.0%	65,764	100.0%	+6,071	+10.1%

乳製品・油脂類

価格上昇もあり、粉乳やバターなどの輸入乳製品売上が増加し、国内仕入品の売上も増加しました。また、国内生産子会社の売上も値上げ効果等で増加となったことから、乳製品・油脂類売上高は前年同期比11.9%増となりました。

製菓原材料類

マロンペーストなどの菓製品の売上は減少となりましたが、製菓用焼き菓子、チョコレート加工品など自社加工製品や国内仕入品の売上が増加となりました。この結果、製菓原材料類売上高は前年同期比9.7%増となりました。

乾果実・缶詰類

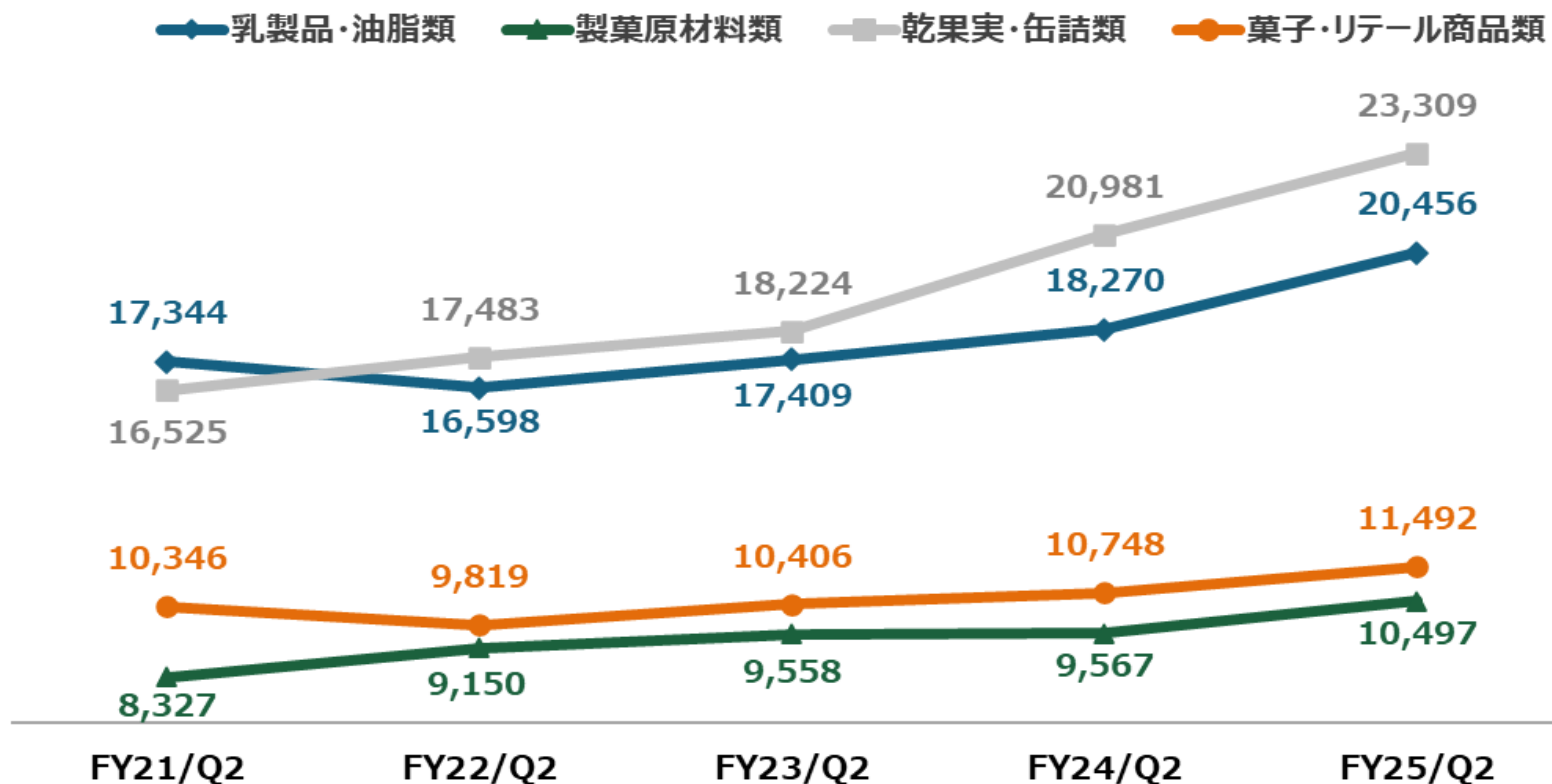
日本国内では、主に単価の上昇を反映し、レーズンやクランベリーなどのドライフルーツ売上が増加しました。また、米国でも単価の上昇からクルミの輸出売上額が増加し、中国国内でのナッツ・ドライフルーツ類の販売が増加となりました。これらの結果、乾果実・缶詰類売上高は前年同期比11.0%増となりました。

菓子・リテール商品類

カカオ原料価格の高騰による販売価格の上昇もあり、NBやPBのチョコレート菓子が増収となり、プルーン小袋などのリテール商品も売上増となりました。これらの結果、菓子・リテール商品類売上高は前年同期比6.9%増となりました。

品目別売上構成（11-4月）

単位：百万円



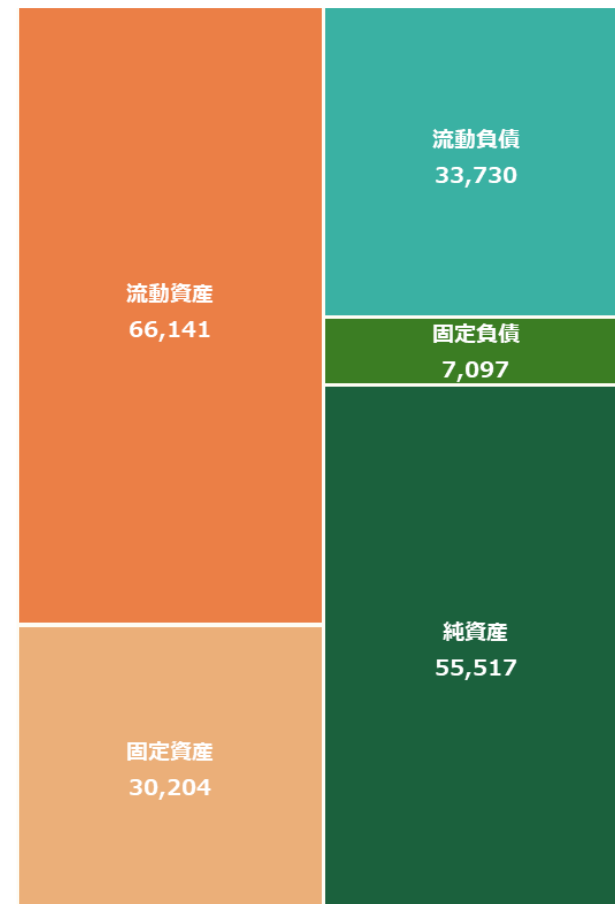
◆現地相場の高騰もあり、国内外両方での売上増により、全ての品目で売上が増加しました。

連結財政状況

- ◆ 固定資産は減少しましたが、受取手形及び売掛金、棚卸資産がそれぞれ増加となり流動資産が増加し、資産合計は増加となりました。
- ◆ 固定負債は減少しましたが、流動負債が増加し、負債合計は増加しました。
- ◆ 利益の内部留保により純資産は増加しました。

単位：百万円

			FY24	FY25/Q2	増減額
資 産	流 動 資 産	現金及び預金	11,194	10,205	▲989
		受取手形及び売掛金	21,823	26,569	+4,746
		棚卸資産	23,775	27,853	+4,077
		その他流動資産	2,354	1,513	▲841
		小計	59,147	66,141	+6,993
	固 定 資 産	有形固定資産	23,438	22,912	▲525
		無形固定資産	631	622	▲8
		投資その他の資産	6,688	6,669	▲18
		小計	30,758	30,204	▲553
	資産合計		89,905	96,345	+6,439
負 債	流動負債	25,789	33,730	+7,941	
	固定負債	9,946	7,097	▲2,849	
	負債合計	35,736	40,828	+5,091	
純 資 産	株主資本	47,259	48,593	+1,334	
	その他の包括利益累計額	5,910	5,882	▲27	
	非支配持分	999	1,041	+41	
	純資産合計	54,169	55,517	+1,347	
負債・純資産合計			89,905	96,345	+6,439
有利子負債			17,486	21,023	+3,536

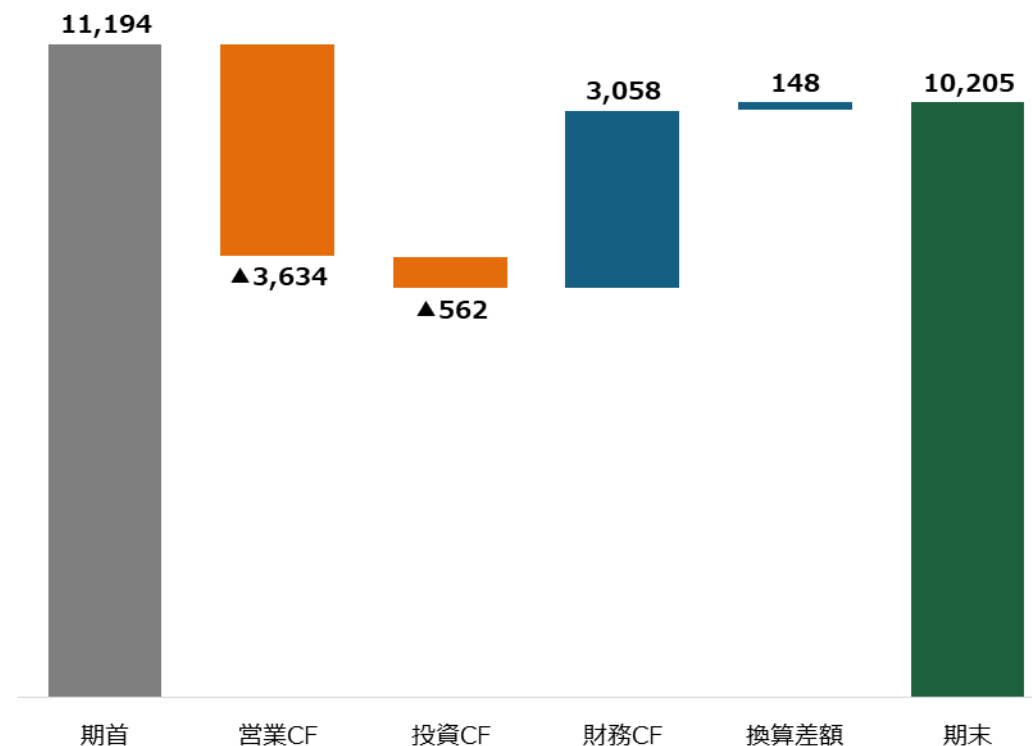


キャッシュ・フローの状況（11-4月）

- ◆ 営業キャッシュフローは売上債権、棚卸資産の増加、仕入債務の減少によりマイナス幅が拡大。
- ◆ 投資キャッシュフローは設備投資額が減少したためマイナス幅は縮小。
- ◆ 有利子負債の増加により財務キャッシュフローはプラス。
- ◆ 現金及び現金同等物は増加。

単位：百万円

	FY24/Q2	FY25/Q2	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	▲1,103	▲3,634	▲2,530
投資活動による キャッシュ・フロー	▲944	▲562	+382
財務活動による キャッシュ・フロー	▲1,522	3,058	+4,581
現金及び現金同等物に 係る換算差額	80	148	+67
現金及び現金同等物の 増減額	▲3,489	▲989	+2,500
現金及び現金同等物の 期首残高	12,948	11,194	▲1,754
現金及び現金同等物の 期末残高	9,458	10,205	+746



I. 2025年10月期 第2四半期（中間期）業績報告

II. 中期経営計画の進捗

経営理念と企業ビジョン

ShoEi

経営理念

私たちは、お客様に常に国内及び海外から厳選された安全・安心な食品を提供することで、新たな食文化を創造し、社会に貢献することを目指します。

創業120周年を迎え、中長期的に目指す姿としてのビジョンの見直しを実施しました。

新ビジョン

素材を超え、新しい価値を！

～食への熱意と絶えない挑戦により素材の可能性を追求することで
人々の健康と幸せな未来を切り拓く～

サステナビリティ経営

食のビジネスを通じて、社会的責任を果たし、自然と共に生きる！



食文化の創造に熱意を持ち、未来の正栄を支える誠実でチャレンジ精神旺盛な人材

食品専門商社としての成長戦略

ShoEi

新領域の開拓

4月のFABEX東京においては当社ブースでのSICOLY商品展示に加えて、セミナー会場でSICOLY商品セミナーを実施しました。冷凍フルーツシートを利用した時短レシピの提案等大変反響を受けました。



当社が日本の総代理店を務める
フランスの大手フルーツ生産者
協同組合



食品専門商社としての成長戦略

ShoEi



世界くるみサミット 2025開催

4月24日東京・赤坂のANAインターコンチネンタルホテル東京にてカリフォルニアくるみ協会主催の「世界くるみサミット2025」が開催されました。本サミットはくるみの健康メリットへの理解を深め、日常的な摂取の促進を目的に、「腸」「脳」「睡眠」の三つのテーマに焦点を当て進められました。



食と健康と取り巻く課題が多様化する中、科学的な根拠に基づいた食材の活用が改めて注目されており、当社は米国カリフォルニアにある関係会社Shoei Foods (U.S.A), Inc.にて高品質なカリフォルニア産くるみの生産を行っており、くるみの持つ多面的な健康効果及びその価値をより多くのお客様へお届けできるよう努めてまいります。



世界のくるみ料理



くるみとカボチャの
ベジタリアン・ウェリントン風
パイ包み焼き(イギリス)



くるみ入りいなり(日本)



くるみバクラヴァ(トルコ)



くるみ入りチキンカンジョン(韓国)



食品専門商社としての成長戦略

ShoEi



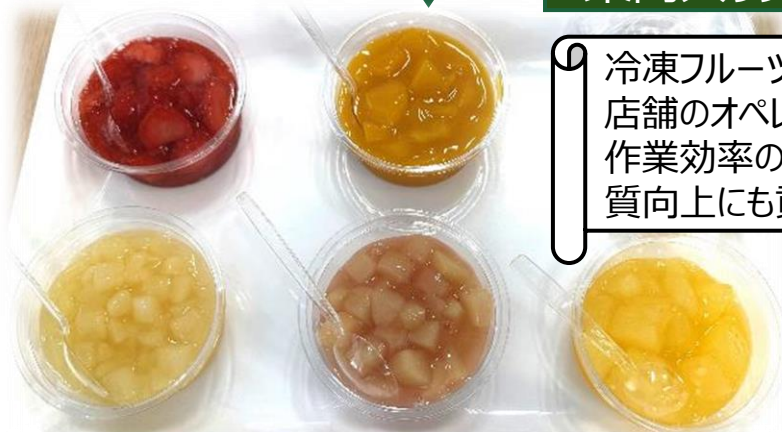
取り扱い商品の ラインアップ拡充

顧客ニーズに合わせた時短商品や価格メリットのある商品など、産地多様化を進め、多国籍多品種原料の取扱い強化に積極的に取り組んでおります。



果肉入りフルーツソース

冷凍フルーツとソースを混ぜて使用する店舗のオペレーション作業が不要になり、作業効率のみならず、安全衛生及び品質向上にも貢献できました。



スペイン産アーモンド



Penta(ペンタ)種

新品種（自家受粉）
カリフォルニア産と比較して脂質が豊富
非常に甘味があるスペイン産原料の
アーモンドプードル（粉）を新規取扱い！

※2025年9月より正式発売致します！



マイクロドライフルーツ

食品メーカーとしての成長戦略

ShoEi



顧客ニーズに合わせた商品設計

ShoEi **まいにち食べたい** シリーズは、毎日食べる野菜や果物のように、ナッツドライフルーツを毎日の食卓に並べておきたい！そんな日常を新しい食文化にしたい！という想いが込められています。



素焼きアーモンド



素焼きクルミ



素焼きカシューナッツ



素焼きミックスナッツ



素焼きピスタチオ



レーズン



3種のレーズンミックス



6種のドライフルーツミックス



6種のドライフルーツミックス
食べ切りパック (備包装)



素焼きマカダミアナッツ



松の実



かぼちゃの種



太陽と大地の実



ジャイアントコーン



ブルーベリー



種ぬきデーツ



8種のドライフルーツ&ナッツ

毎日食べてほしいからナッツは**自社工場**でこだわりの焙煎で風味と食感をプラス！

ドライフルーツはそのまま食べてもトッピングに使ってもぴったりの**自社輸入**の厳選素材を**自社工場**にて詰め合わせました。

食品メーカーとしての成長戦略

ShoEi



顧客ニーズに合わせた商品設計 及びそれに伴う設備投資

子会社株式会社京まろん水海道工場にてさつまいものペーストラインを新設しました。

新しい設備を導入し、製菓材料として適したさつまいもの品種選定を行い、順調に稼働を開始しました。



しっとりした味わいで、紅はるかよりもやや粉質な食感、鮮やかな黄色の肉質が魅力的な新しい商品ができました。

蒸し芋
ペースト
かぐや

STEAMED SWEET
POTATO PASTE
"KAGUYA"

茨城県産



栗かぐや®

は近年
登場した新しいさつまいもでカネコ
種苗株式会社の登録商標です。



しっとり

やや粉質

サステナビリティへの取り組み

ShoEi



派生品再利用



REDUCE



REUSE



RECYCLE

米国産クルミ殻の粉碎品の取扱いを開始！

当社の米国子会社では、米国産クルミの加工を行って出荷しております。

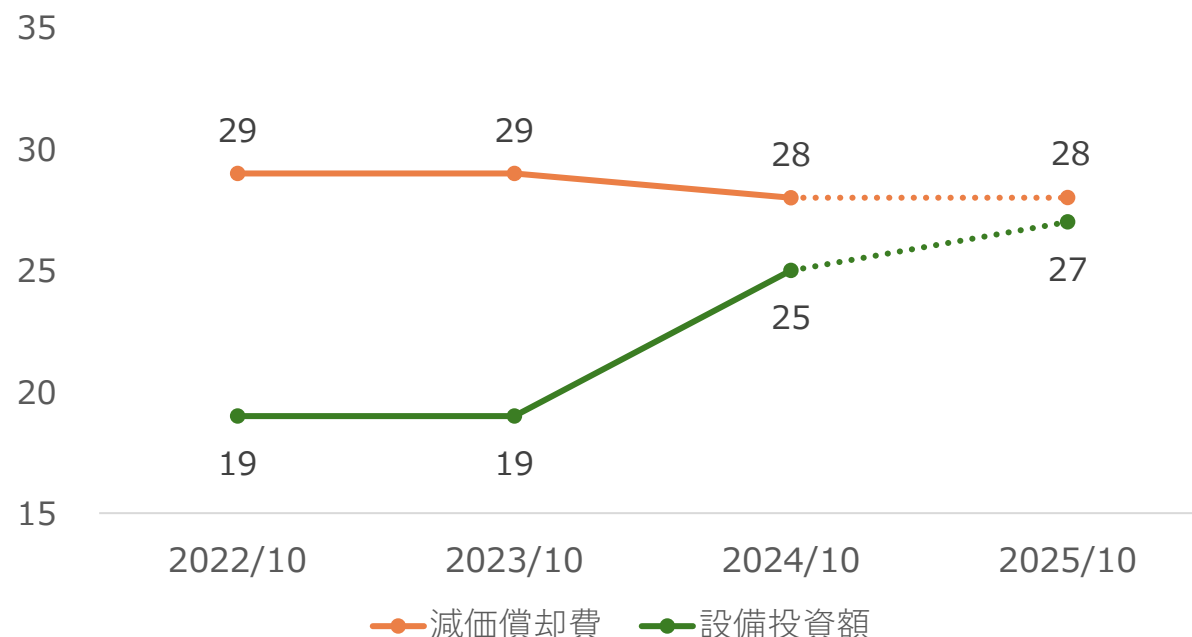
これまで処分していた製造工程で発生するクルミの殻について、再利用を可能とするための設備導入を新たに行い、植物性軟質粒のクルミ殻等を原料とする研磨材・充填材などを製造・販売する会社への納品を開始しました。

納入したクルミ殻は、研磨メディアや、濾過材、充填材、小動物の床材、美容・家庭商品など、自然素材を活用した創造性のある商品として様々な分野で活用されています。

設備投資計画の進捗状況

- ◆ 2025/10期における設備投資額は約30億円を計画しておりましたが、投資計画を見直し、有形固定資産約23億円、無形固定資産約4億円の計27億円の設備投資を予定しております。
- ◆ 有形固定資産への投資は、国内や海外生産子会社での生産効率向上等を目的とした設備の更新や新規導入を中心に予定しております。
- ◆ 無形固定資産としては、主にDX推進のためのIT投資を予定しております。

単位：億円



〈設備投資内訳〉

有形固定資産	23億円
無形固定資産	4 億円
合計	27億円

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとわれる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。